

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑦④

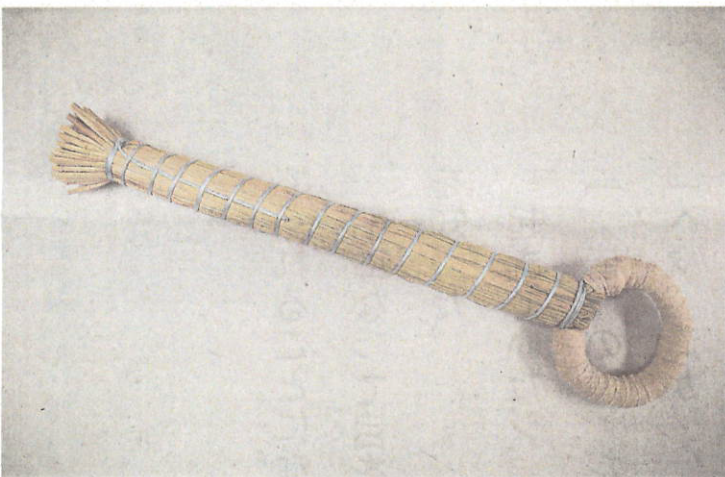
亥(い)の子とは、旧暦が藁亥の子を手に持ち、家々10月の亥の日に行われる収を訪問して地面をたたいて穫祝いの年中行事で、「オ回り」祝儀や餅をもろつ。イノコサン」として親しま

れている。最初の亥の日を13年に開催した特別展「民具王国びっくりミステリー」の体験用資料として製作したもので、稲類あり、子どもたちが藁(わら)の棒を手に持って地面をたたく方法と、石で地面を打ちつける方法がある。

藁亥の子は「ホテ」「ワラボテ」とも呼ばれ、子どもたちれ、写真の資料は宇和島市域の土手内地区は数え歌型

もう一方の亥の子石は、「グリーンサン」とも呼ばれる。例えば松山市北条地域の土手内地区は数え歌型

収穫祝い 2種類の方法



①藁亥の子(長さ42・0センチ、2013年製作)②亥の子石(直径15・5センチ、高さ12・0センチ、重さ6・5キロ) 県歴史文化博物館蔵

で使われていたもの。丸い石のくびれ部分に鉄の輪がはめこまれ、さらにその輪に複数の小さな輪が付けられている。子どもたちは小さな輪に縄を結び、縄の端を握り、亥の子歌を歌いながらタイミングを合わせて、亥の子石を地面に打ちつけ、家内安全や五穀豊穡(ほつじょう)を祈願して集落内の家々を回る。

亥の子石をつくる際には、亥の子歌を歌い、調子を合わせる。その歌は地域により様々であるが、大きく分けると数え歌型と呪詛(じゅそ)型がある。例えば松山市北条地域の土手内地区は数え歌型

今年が一番亥の子は11月7日。やり方も歌も多様なだけに、みなさんの地域の亥の子がどんなものか気になる今日この頃である。(専門学芸員・松井寿)

「藁亥の子」「亥の子石」はテーマ展「愛媛の祭り」と年中行事」で10月19日から展示予定。

〈随時掲載します〉